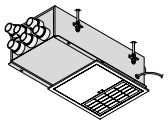
MITSUBISHI

1303875HD3604

ロスナイ セントラル換気ユニット 住宅用



形 名

VL-11ZF,VL-11ZFH,VL-11ZFHV,
VL-08ZF,VL-08ZFH,VL-95ZF-SH,VL-95ZFHV-SH

据付説明書　　販売店・工事店様用

■この製品は住宅専用です。それ以外には使用しないでください。故障の原因となります。
■この製品は 24 時間換気システムとしてご使用ください。
■この製品の性能、機能を十分発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付けが必要です。
　据付けの前に、この据付説明書をよくお読みください。
■据付けは販売店様、または専門の工事店様が実施してください。間違った据付けは、故障や事故の原因になります。
■お客様ご自身での据付けは、故障や事故の原因になります。
■電気工事は販売店・工事店様において有資格者である電気工事士の方が実施してください。
　（無資格者の電気工事は法律で禁止されています）

別冊の「取扱説明書」はお客様用です。お客様に必ずお渡しください。

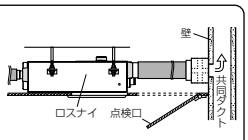
安全のために必ず守ること

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

⚠警告 誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの		⚠注意 誤った取扱いをしたときに軽傷または家屋・家財などの損害に結びつくもの	
禁止	●交流 100V を使用する 直流や交流 200V を使用すると火災・感電や基板破損の原因	禁止	●天井据付け専用です。壁には据付けない 落下によるけがの原因
分解禁止	●改造や工具を必要とする分解はしない 火災・感電・けがの原因		●高温や直接炎があたったり、油煙の多い場所には据付けない 火災の原因
浴室据付禁止	●浴室など湿気の多い所には本体・壁スイッチとも据付けない 感電・漏電の原因		●寒冷地（次世代省エネ基準　1（Ⅰa）、2（Ⅰb）地域）には据付けない （パネル表面に水が付着し、製品本体から水が滴下します）
水ぬれ禁止	●製品を水につけたり、水をかけたりしない ショート・感電の原因		●下記の使用条件を超える地域・場所には据付けない 外気温度 ：－10℃～40℃ 本体周囲および還気温湿度 ：0℃～40℃，相対湿度 80%以下かつ最低外気温度条件（－10℃）にて露点温度 10.7℃（20℃，相対湿度 55%相当）となる絶対湿度以下
指示に従う	●外気の取り入れ口は、燃焼ガスなどの排気を吸い込まない、積雪で埋もれたりしない位置を選ぶ 新鮮な空気が取り入れられず、室内が酸欠状態になる原因 ●本体の設置は十分強度のあるところを選んで確実に行う 落下によるけがの原因 ●電気工事は電気設備技術基準や内線規程に従って必ず専門の電気工事店（電気工事士）が安全・確実に行う 接続不良や誤った電気工事は火災・感電の原因 ●指定の電線を使用して、抜けないように確実に接続する 接続に不備があると火災の原因 ●メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう据付ける 漏電した場合発火の原因	指示に従う	●据付けの際は手袋を着用する 着用しないとけがの原因 ●本体およびダクト配管は断熱層・気密層の室内側に設置する 断熱層の室外側では熱回収した空気温度の低下や結露が発生する原因 ●ダクト配管のはずれがないよう市販の固定バンドやアルミテープ等を用いて固定し、本体からの屋外ダクトは屋外に向かって 1/30 以上の下りこう配になるように据付ける ●給・排気ダクトの先端には、雨水、雪、小動物（こうもりなど）が侵入しにくい屋外フード（P-13VA3 など）を選定する 雨水の浸入による感電・火災や家財などを濡らす原因 ●室外側および室内給気側ダクトには必ず断熱ダクトを使用し、ダクトの断熱は必ず根元まで行う 冬期露出部分が低温になるため、室内湿気による結露発生の原因 ●端子台カバーは工事後必ず閉める ほこり・湿気などにより漏電・火災の原因 ●据付け後長期間ご使用にならない場合は、必ず分電盤ブレーカーを切る 絶縁劣化による感電・漏電火災の原因

規　制

●共同ダクトへ排気する場合は、建築基準法施工令により、2mの鋼板立上がりダクトを取付けるか、システム部材の煙逆流防止ダンパーおよびその点検口を必ず設けてください。
●システム部材の使用については、地区により異なった規制を受ける場合がありますのであらかじめ所轄の官公庁（特に消防署）にご相談ください。
●ジャバラ・不燃ダクトの使用については、地区により異なった規制を受ける場合がありますのであらかじめ所轄の官公庁（特に消防署）にご相談ください。

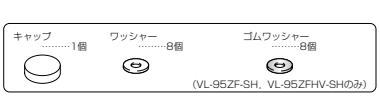


お願い

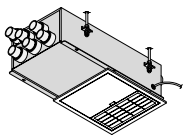
●霧の多く発生する地域ではフィルターボックス（別売）の使用をおすすめします。使用しない場合、製品から水が滴下することがあります。
　フィルターボックス（別売）はメンテナンスが可能な位置に取付けてください。
●換気ユニットの給気側フィルター（外気清浄フィルター）は質量法による捕集効率が82%です。このため一部の粒子や虫などが通過する場合があります。換気ユニット給気側（OA）と外気取込フードの間にフィルターボックス（別売）を設置するか、粒子や虫が侵入しないように捕集効率がより高い高性能除じんフィルター（別売）を設けることを推奨します。
●本体は寝室の近くに設置しないでください。（騒音問題の原因）
●給・排気グリルは反響しにくい場所に設置してください。（騒音問題の原因）
●屋外フードの位置は給気・排気が混ざらないよう450㎜以上の距離をとることが望ましいとされています。
●室内側ダクトを2本以下で使用しないでください。
●右図のようなダクト配管はしないでください。（風量低下や異常音発生の原因）
●フィルター清掃が必要なため、本体は掃除のしやすい場所に設置してください。
●本体を据付けるまで床置きする場合は梱包ダンボールの上に置き、直接床に置かないでください。モーター部分が突起しており、床の損傷やモーターの破損の原因となります。
●この製品はダクト接続部が発泡スチロールで構成されております。
　据付時の破損にはご注意ください。

据付例

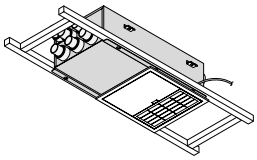
■付属部品



吊りボルトで吊り下げる場合

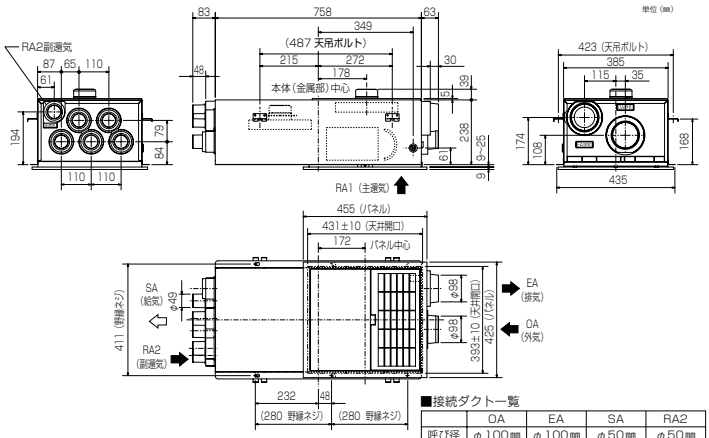


野縁木枠に据付ける場合



外形寸法図

本　体　VL-11ZF,VL-11ZFH,VL-11ZFHV,
VL-08ZF,VL-08ZFH,VL-95ZF-SH,VL-95ZFHV-SH

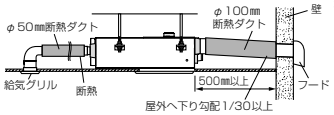


■接続ダクト一覧

	OA	EA	SA	RA2
呼び径	φ100㎜	φ100㎜	φ50㎜	φ50㎜
断熱	要	要	要	不要

据付方法

据付位置決め



据付位置・壁穴位置を決める

⚠注意
●本体およびダクト配管は断熱層・気密層の室内側に設置する
断熱層の室外側では熱回収した空気温度の低下や結露が発生する原因

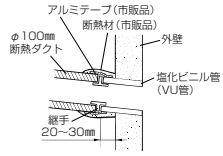
ダクト工事

壁の給・排気穴から本体のダクト接続口位置までのダクト配管（例）

（1）外壁に埋め込んだ塩化ビニル管（VU 管）に継手（別売）を接続する。

お願い
●外壁に VP 管が埋め込まれている場合は、VP 管用の継手（市販品）を使用してください。

（2）φ 100 ㎜断熱ダクトを継手に接続し、市販のアルミテープで固定する。
（3）吹き付け式またはテープ式の断熱材（市販品）を接続部に施す。



⚠注意
●室外側および室内給気側ダクトには必ず断熱ダクトを使用し、ダクトの断熱は必ず根元まで行う
冬期露出部分が低温になるため、室内湿気による結露発生の原因
●ダクト配管のはずれがないよう市販の固定バンドやアルミテープなどを用いて固定し、本体からの屋外ダクトは、屋外に向かって 1/30 以上の下りこう配になるように据付ける
雨水の浸入による感電・火災や家財などを濡らす原因

吊りボルトで吊り下げる場合

吊りボルトの埋め込み

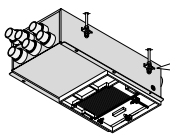
●市販の吊りボルト（M8）を埋め込む。（外形寸法図の（天吊ボルト）を参照）

お願い
●アンカーボルトが長いと製品と干渉するおそれがあります。
●天吊金具からのアンカーボルトのとびだしは 100 ㎜以下としてください。

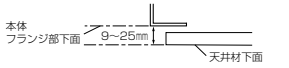
本体を吊る（製品質量は13.2kgまたは12.3kgです。吊り作業は必ず2名以上で行ってください）

1．本体を吊る

（1）市販のナットを吊りボルトに取付ける。
（2）吊りボルトに付属のワッシャー、ゴムワッシャー（VL-95ZF-SH、VL-95ZFHV-SH のみ）、天吊金具を通す。
（3）本体が水平になるように市販のナットで固定する。



お願い
●本体のフランジ部下面が天井材下面より 9～25 ㎜以内に入るように本体を固定してください。
●上記寸法を守らないとパネルが取付けられません。



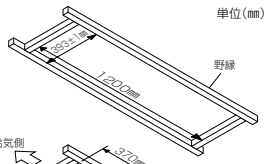
野縁木枠に据付ける場合

野縁を組む

野縁木枠の取付け

●右図の寸法になるように、野縁木枠を取付ける。

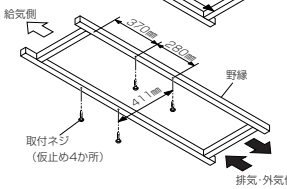
お願い
●使用する材料の角寸は 40～45 ㎜のものを使用してください。



取付ネジの仮止め

（1）本体を据付ける位置に取付ネジ（市販の皿木ネジ）4か所を仮止めする。

お願い
●下穴をあけてから取付ネジを仮止めしてください。
●ネジは呼び径4の皿木ネジ、ネジ長さ25㎜以上のものを使用してください。



本体を据付ける（製品質量は13.2kgまたは12.3kgです。吊り作業は必ず2名以上で行ってください）

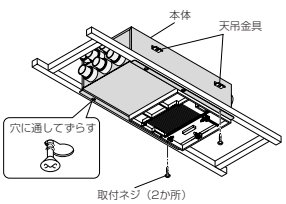
本体の固定

（1）本体の天吊金具（ネジ2本×4か所）をはずす。
（2）本体のネジ穴4か所を通して木枠に仮止めする。

⚠注意　●仮止めの状態で放置しないでください。本体が落下するとけがや本体損傷の原因になります。

（3）仮止めの取付ネジ4か所を増し締めして固定する。
（4）さらに本体を取付ネジ2か所で固定する。
（5）（1）で取りはずした天吊金具を取付ける。

お願い
●本体がしっかり固定されたか確認してください。



ダクト接続

ダクトを接続する

(1) 室内側、室外側ダクトと副還気ダクトをダクト接続口に差し込む。

ご注意

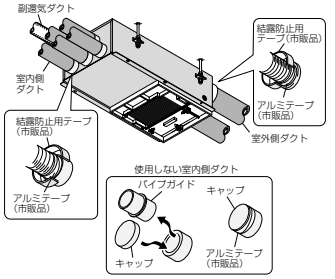
●室内側ダクトと副還気ダクトを間違えないよう注意してください。

(2) ダクト接続口とダクトのすき間を市販のアルミテープで固定する。

(3) アルミテープの上から市販の結露防止用テープをダクト接続口の根元まで巻く。

お願い

●ダクトを接続する前にダクト内や本体内に切り粉や異物（紙、ビニールなど）が入っていないことを確認してください。



使用しない室内側ダクト接続口がある場合

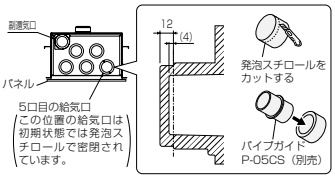
①バイプガイドを取りはずす。
②付属のキャップを使用しないダクト接続口にかぶせ市販のアルミテープで固定する。

お願い

●室内側ダクトを２本以下で使用しないでください。

5口目の給気口を使用する場合

右図の５口目の給気口は初期状態では発泡スチロールで密閉されています。使用する場合は、以下の手順で開口してください。
①カッターナイフなどで、発泡スチロールの先端から 12 ㎜の位置で一周カットする。
②別売のバイプガイド（P-05CS）を開口部に挿入する。



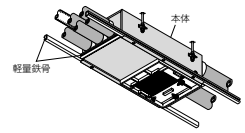
■VL-95ZF-SH，VL-95ZFHV-SHの場合

軽量鉄骨を組む

軽量鉄骨を本体周囲4辺に右図のように組む。

お願い

●ダクト接続部下の軽量鉄骨はダクト接続後に取付けてください。先に取付けるとダクト接続ができなくなります。



電気工事

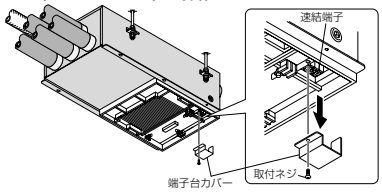
⚠警告

●**交流 100V を使用する**　直流や交流 200V を使用すると火災・感電や基板破損の原因
●**指定の電線を使用して、抜けないように確実に接続する**　接続に不備があると火災の原因
●**電気工事は電気設備技術基準や内線規程に従って必ず専門の電気工事店（電気工事士）が安全・確実に行う**　接続不良や誤った電気工事は火災・感電の原因
●**ロスナイとコントロールスイッチ間の配線合計は 30m 以内とする**
配線間を流れる微少電流により、誤動作する原因

この製品はシステム部材の別売コントロールスイッチ（P-04SWLなど）で操作します。

1．端子台カバーをはずす

●ネジ1本をはずし、端子台カバーを取りはずす。

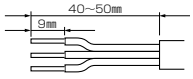


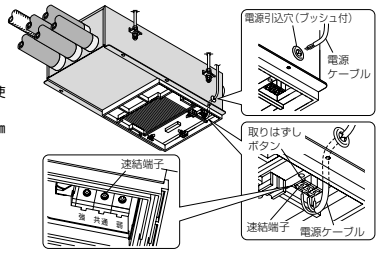
2．配線をする

●本体の電源引込穴のブッシュを通して電源線を引き込み、速結端子に配線する。

お願い

●電源ケーブルは VVF ケーブルのφ 1.6 ㎜単線を使用してください。
●本体端子台に接続する電源ケーブルの先端は、9 ㎜皮むきしてください。





※上図はVL-11ZF, VL-08ZF, VL-08ZFH, VL-95ZF-SHの場合を示します。

3．結線をする

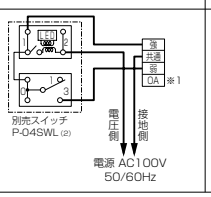
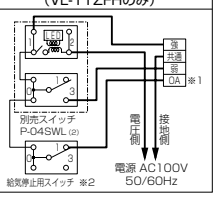
●太線部を結線図のとおりに端子台に結線をする。

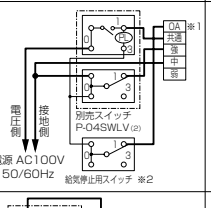
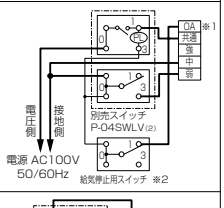
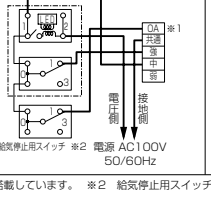
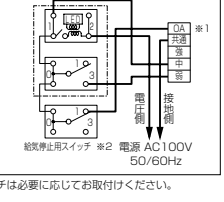
● VVF ケーブルを確実に端子台に差し込み、軽く引っ張り抜けないことを確認する。

お願い

●市販のスイッチを使用する場合も、必ず結線図に従ってください。（下図のスイッチへの結線部分と渡り線が異なり、誤結線となる場合があります）
●誤結線により、内蔵リレーのチャタリングが発生する場合があります。このとき他の電気製品（医療機器含む）に電波傷害が生じる可能性がありますので、必ず結線図に従ってください。
●スイッチの仕様が定格 0.5A-AC300V では使用できません。定格 4A-300V を使用してください。

■結線図（太線を結線する）　**誤結線注意**

機種名	使用するスイッチ	給気停止用スイッチなし	給気停止用スイッチあり（VL-11ZFHのみ）
VL-11ZF, VL-11ZFH, VL-08ZF, VL-08ZFH, VL-95ZF-SH	定格4A AC300V スイッチ (P-04SWL (2) など)		

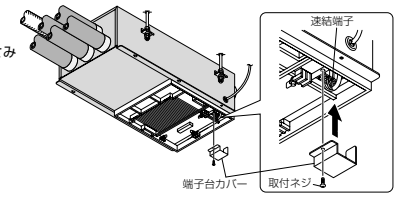
機種名	使用するスイッチ	2ノッチ（強−中）	2ノッチ（中−弱）
VL-11ZFHV, VL-95ZFHV-SH	DCタイプ専用スイッチ P-04SWLV (2)		
	定格4A AC300V スイッチ (P-04SWL (2) など) （運転状態によりスイッチのランプの点灯が薄くなったり、ちらついたりすることがあります。）		

※1　OA端子はVL-11ZFH, VL-11ZFHVのみ搭載しています。　※2　給気停止用スイッチは必要に応じてお取付けください。

4．元通りに端子台カバーを取付ける

お願い

●端子台カバーを閉じる際は VVF ケーブルのはさみ込みに注意してください。

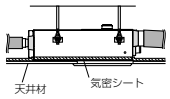


気密シートを貼る場合

気密シートは本体の外郭金属部に市販のアルミテープで固定する

ご注意

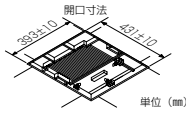
●パネルのバネを差し込む黒いプラスチック部品に固定すると部品交換ができなくなります。



天井材を張る

右図の寸法を参考に天井材の開口をあける

※開口の位置・方向は外形寸法図を参照してください。

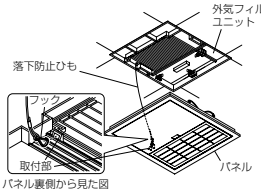


パネルの取付け

落下防止ひもの取付け

本体側にネジ止めされている落下防止ひもの先端フックをパネルの取付部に取付ける。

⚠注意
●先端フックがパネルの取付部に確実に取付けられたか必ず確認してください。
●落下防止ひもがパネルと黒いプラスチック部品にかみこまないように取付けてください。



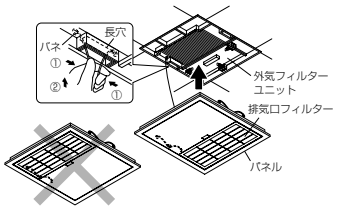
パネルの取付け

パネルにあるバネ（2か所）を①本体の長穴に差し込み、②パネルを軽く上に押し上げる。

●バネは本体側へ1か所ずつ差し込んだ方がスムーズに取付けられます。

お願い

●パネルは取付方向があります。取付けた状態で排気口フィルターの奥に外気フィルターユニットが見えることを確認してください。



据付工事後の確認と試運転

■据付工事終了後、試運転の前にチェック表にしたがって点検します。
■不具合があった場合は必ず直してください。（機能が発揮されないばかりか、安全性が確保できません）

■チェック表

		チェック項目	不具合時の対策	チェック
据付工事	本体設置	本体の据付け強度は十分ですか？	野縁木枠や吊りボルトを固定し直します	
		本体が確実に据付けられていますか？	吊りボルト、本体固定ネジを締め直します	
		落下防止ひもが確実に取付けられていますか？	落下防止ひもの先端フックがパネルの取付部に確実に取付けられているか確認します	
		パネルが確実に取付けられていますか？	パネルを取付け直します	
		排気口フィルターの奥に外気フィルターユニットが見えますか？	外気フィルターユニットが見えなければパネルが逆に取付けられています。パネルを取付け直します。	
	ダクト接続	本体およびダクト配管は断熱層・気密層の内側ですか？	断熱層・気密層の内側にします	
		ダクトは雨水の浸入を防ぐため、屋外に向かって1/30以上の傾斜をつけましたか？	傾斜をつけて設置します	
		ダクト接続口は根元まで断熱しましたか？	断熱処理します	
		ダクト内に切り粉や異物（紙・ビニールなど）が入っていませんでしたか？	異物などを取除きます	
		ダクトは還気（RA2）を除いて断熱されていますか？	還気（RA2）ダクト以外は結露防止用テープを巻きます	
		本体にダクトが正しく接続されていますか？	ダクトを確実に接続します	
		電圧は交流100Vですか？	交流100Vに直します（異電圧を印加すると製品が破損します）	
試運転中		スイッチの操作と本体動作は合っていますか？	結線図に従って結線を直します	
		異常な振動や騒音がないか？	●天吊金具や吊りボルトのゆるみがないか？ ●ダクトはずれがないか？ ●部品はずれ、破損はないか？	
		各グリルから給気または排気がされているか？	●配管内に異物混入はないか？ ●ダクトはずれがないか？ ●風量低下や異常音の原因となるような配管をしていないか？ ●ダクトが極端に曲がっていたら修復する	

お客様への説明

●分電盤ブレーカーとコントロールスイッチの位置をお客様へ説明してください。
●チェック表の結果をお客様へお知らせください。
●この「据付説明書」は、別冊の「取扱説明書」とともにお客様へお渡しください。
●お客様が不在の場合は、発注者（オーナーなど）または、管理者へ説明してください。

三菱電機株式会社
中津川製作所 〒508−8666 岐阜県中津川市駒場町１番３号

この説明書は、再生紙を使用しています。